令和４年度
第１１号

進路だより

令和４年１２月１３日発行
青森県立黒石養護学校
進路指導部

高等部入学から進路決定までの主な流れ

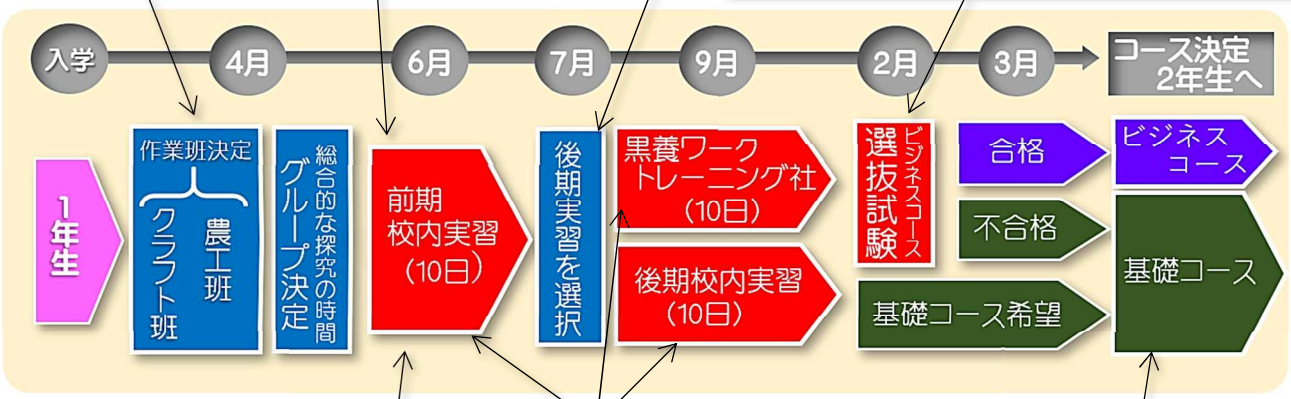
今回は、本校高等部に入学後から進路決定に至るまでの、進路に関わる意志決定、現場実習の進み方等の流れをご説明します。高等部に入学したら、全ての場面で本人が行う選択と決定は、卒業後の進路につながります。たとえば、「総合的な探究の時間」のグループ分けのときに、進路への意識がどれくらい育っているか分かります。たとえ親が「会社に就職させたい」と思っても、本人は「放課後等デイサービスのように楽しい生活を希望します！」と言うこともあります。会社やA型事業所を目指すことになると、B型事業所や生活介護事業所とは違う準備も必要となってきますから、親の希望ではなく、本人の強い希望と意志が必要になります。

校内実習では、ボルトナットの仮組を10日間。9時から14時頃まで立ち作業が続きます。日々の作業量の推移、適性、態度、体力などについて一人一人の到達度を評価します。

実習中も放課後等デイサービス（放デイ）を利用するなら校内実習になります。校内実習なので給食も食べられます。
学校以外の場所で実施する黒養ワークトレーニング社は模擬会社です。参加のためには、自力通勤、昼食の準備が必要です。保護者送迎も放デイも利用せずにやり遂げることを目指します。

4 月に作業班の見学・体験を行い、農工班またはクラフト班に所属します。

B型や生活介護希望者は基礎コースを選びます。
会社やA型を目指す場合は受験が必要です。
作業技能、職業準備性、面接試験を実施。200点満点で採点し150点以上が合格となります。



2回の実習時の様子から、作業速度や量、正確性、作業態度、本人の意欲、耐性等を客観的に評価しています。
このときの評価は、2年生前期の実習を会社、A型、B型、生活介護等、どの段階から始めるかの手がかりになります。

2年生でコースが分かれても、クラスは一緒です。
作業学習の時間に各コースで学習します。

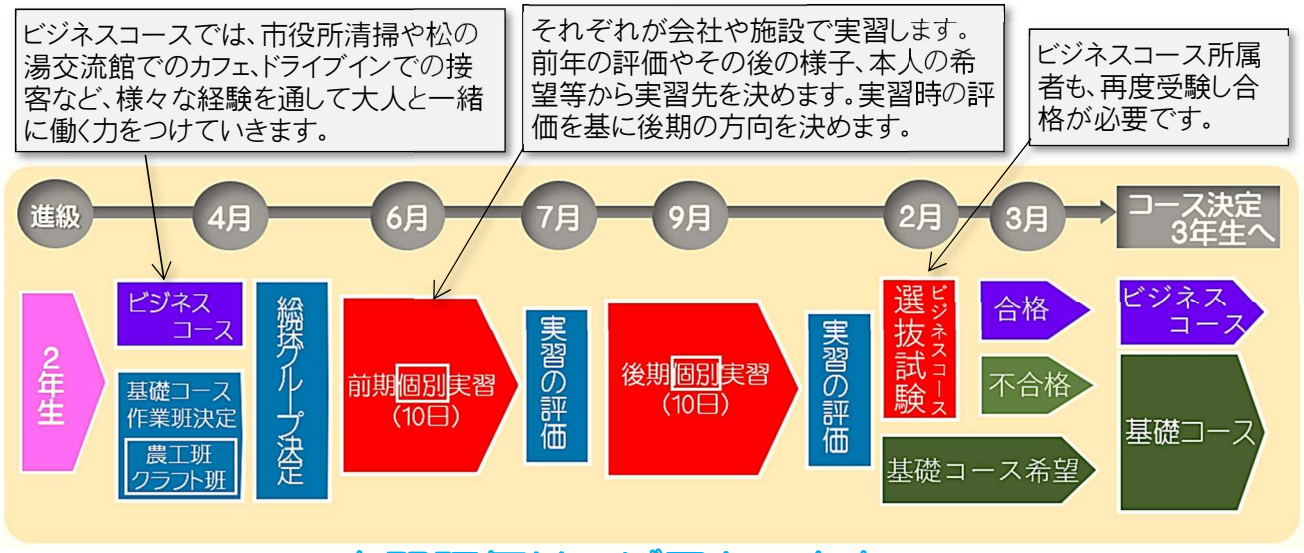
グループの希望時には、生徒自身の進路希望や意識がはっきりと現れます。
ハローワーキング ⇒ 職業生活に必要な知識やマナーについての学習を進めるグループ。
シルシルワールド ⇒ 一人一人の興味・関心をとことん深掘りするグループ。
がむし～ず ⇒ 身体を動かすゲームや運動中心に活動するグループ。

働くときの“できる”をどう考えるのか？

普段、子どもたちが1つずつ「できる力」を獲得したのを見るのはとてもうれしいものです。我々は、それを「○○ができたね！」とほめ、「○○ができるようになりました！」と大いに評価します。

一方、実習先や進路を決める際には、本人の最大値（なんとかできた、一緒にできた、1回だけできた）ではなく、最小値から平均値（一人でも無理なく続けられる）をベースに考えます。フルパワーで努力して“やっとできる力”では、毎日働く生活を続けられないからです。可能性を考慮しつつも無理なく続けられるところから、実習先を考えていくようにしています。実習を通して“できた！”と“できなかった！”を生徒自身が実感することで次につながるのだと考えています。

2年に進級

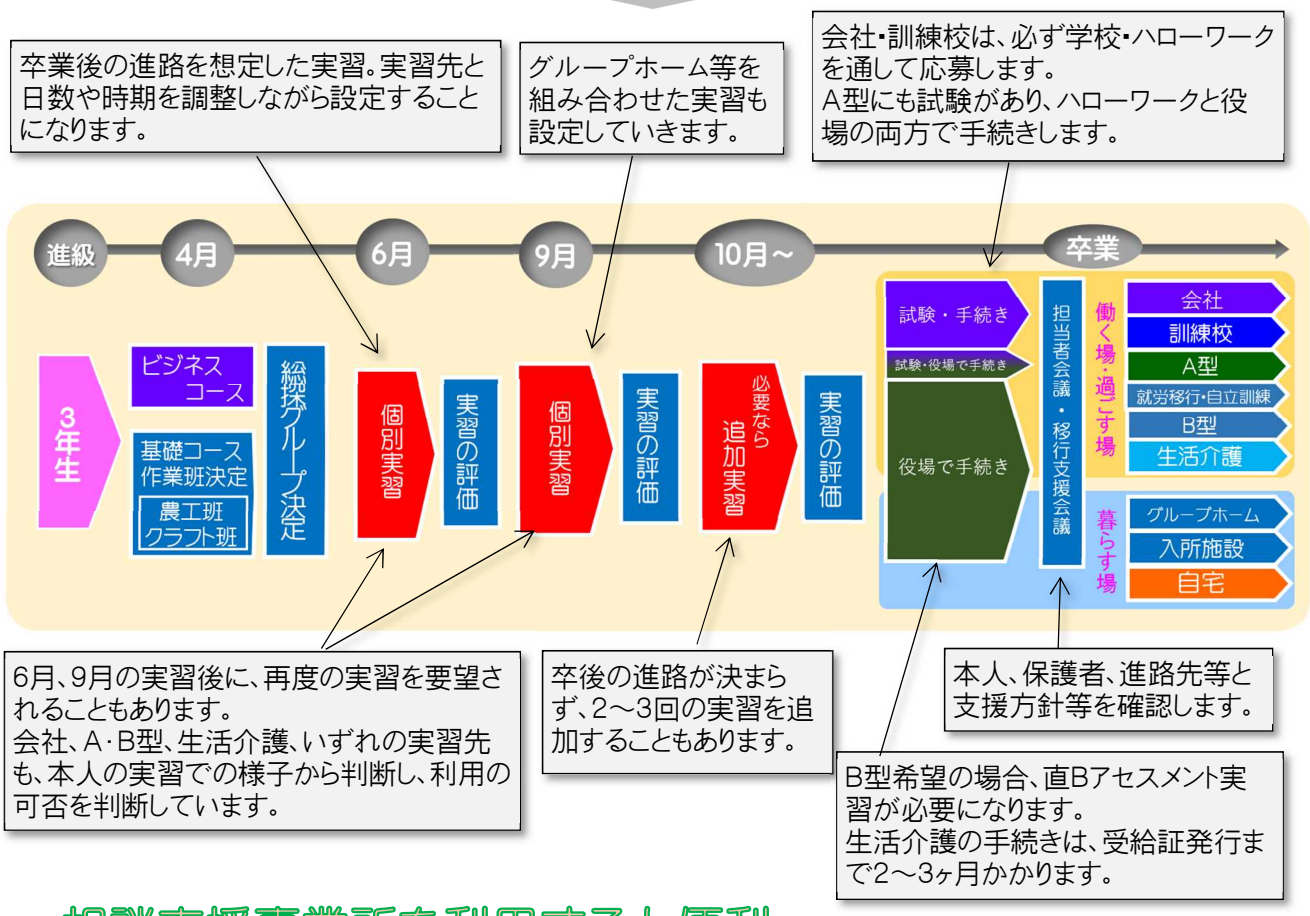


～実習評価はシビアなことも～

実習先から“できた部分、できなかった部分”を評価していただきます。それと共に実習先で “どれくらいのポジションにいるのか”や“実習先での雇用（利用）が可能か”といったシビアな評価もしていただいています。

実習後は「失敗したけれど楽しかった」といった感想ではなく、「B型施設の利用者の中で、自分は中くらいの仕事量だった」とか「次はA型にチャレンジできそうだ」、「挨拶や返事、報告ができなかったから施設外実習に参加できなかった」「失敗したときすぐに報告できなかったから迷惑をかけた」等、実感を伴った反省ができるようになってきます。そこから次の目標がはっきりとし、自分から努力できる部分が増えてきます。

3年に進級



～相談支援事業所を利用すると便利～

福祉サービスを利用する場合の手続きは、それぞれの進路で異なりますが、放課後等デイサービスを利用されている方は、同じような手続きだとイメージしていただければと思います。

在学中に福祉サービス（放課後等デイサービスやショートステイ等）を利用していない場合、相談支援事業所も決めると手続きがスムーズですし、福祉サービスの利用や本人の生活についての相談もできます。